

【2020年5月世界初演】太鼓と創造力が作りだす、新・視聴体感芸術

鼓童×ロベール・ルパージュ 〈NOVA〉

“音を見る”を可能にするテクノロジーと象徴的シーンを初公開

人と技術が舞台上で融合、あえてテクノロジーを感じさせない一体感を実現

太鼓芸能集団「鼓童」は、“映像の魔術師”ロベール・ルパージュ氏が演出を手掛ける「鼓童×ロベール・ルパージュ〈NOVA〉(ノーヴァ)」を2020年5月23日(土)より日本で初上演し、その後世界各地で公演します。本リリースでは公演に先駆け、作品のモチーフでもある“サイマティクス(意味:音や振動の可視化)”を実現するテクノロジーと、象徴的なシーンについてご紹介します。



撮影：伊藤大輔

〈NOVA〉とは、日本文化と最先端ビジュアルテクノロジーが融合する、新・視聴体感芸術です。演者の動きや太鼓の振動をテクノロジーで感知し、映像や照明などの舞台装置を連動させることで、“音を見る”ことができる舞台作品を実現しました。

ストーリーの面では、生命の誕生から始まり人間本来の根源的なものを表現しながら、人が生きる上で忘れてはいけない希望や夢など「目には見えにくいもの」を、テクノロジーによって音を可視化することで表現しようとしています。

〈NOVA〉におけるテクノロジー

〈NOVA〉の舞台におけるテクノロジーの在り方は、一般に“テクノロジー”と言われて思い描くような近未来的な姿ではないかもしれません。

NOVAにおいて技術はあくまでもツールであり、作品の中心は演者であり太鼓と考えています。単に演者や舞台に映像を投影するプロジェクションマッピングや、テクノロジーに演者が動きを合わせるのではなく、太鼓の音や打ち手の生のリズムにテクノロジーが反応することで、音から動きが起こり、繋がり、一つの表現を構築します。

◆ 〈NOVA〉を創るテクノロジー1「Photon（フォトン）システム」

〈NOVA〉の“生”感を支える中心的な技術として、「Photon システム」を使用しています。「コペルニクス」と呼ばれる人の目には見えない光を発する装置を用いて空間をマッピングすると、舞台上で床に立ち位置などの目印としてつける“バミリ”を、空間上にも仮想的に施すことができます。

演者や太鼓にもコペルニクスを装着し、その信号を舞台上に設置する8箇所・8台のカメラで捉えて追うことで、演者や太鼓のどんな動きも追跡することができます。

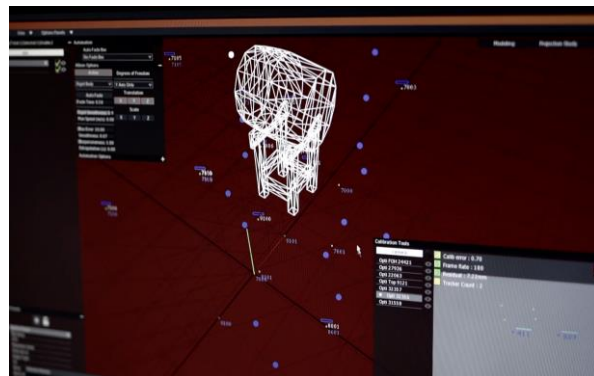
通常、舞台上の演者を照らすピンスポットにはそれを操作する技術者の意図が含まれ、演者も予定にない動きを控えるなど、お互いにイレギュラーな動きへの抑止力が働いています。

このシステムを用いることで、人の動きや太鼓の音と連動した照明・映像の変化を起こすことが可能になり、人が技術に合わせることなく自由にパフォーマンスを行いながらも、テクノロジーと完全に融合した表現を実現しています。

◆ 〈NOVA〉を創るテクノロジー2「トリガー」

鼓童の演者が演奏する太鼓のひとつひとつには「トリガー」と呼ばれる装置がつけられており、太鼓の表面の振動に反応して照明と映像が変化します。こうすることで太鼓の音にインタラクティブに反応する演出を行っています。音の大きさ、たたき方による振動の違いを視覚化する“サイマティクス”の取り組みです。

一方で、太鼓の音の振動幅はとて大きいいため、トリガーの感度が低いと全て同じインプットになってしまい、感度を上げると隣の太鼓の振動にも反応してしまうなど、調整が非常に難しい技術でもあります。



〈NOVA〉の根底にあるストーリー

作品のストーリーについて、演出を手掛けるロベール・ルパージュ氏はこのように語っています。

「〈NOVA〉という公演は「世界の創造」あるいは「宇宙の創造」を描いています。本作では人類がこの世に誕生する以前の始まりから焦点を当て、人類がどのようにこの世界であらゆる森羅万象と対峙してきたのかを描いています。もちろん人類がこれまで遂げてきた進化や発展は著しいですが、同時に破滅や破壊も繰り返してきました。我々はこの「陰」と「陽」が行き来する世界の中で学び、未来へつながらる光の兆しを求めているのだと思います。この作品を通して、世界と人類の発展・進化そして自滅までも表していますが、決して政治的なメッセージを伝えたい訳ではないのです。この作品は、私たち人間が過去の混沌から学ぶべきことや、人類の営みとこの非常に複雑な宇宙とを、どのように調和させるのかという問いをなげかけています。

◆ 〈NOVA〉を象徴するシーン1「DNA」

地球が誕生した後、一つの細胞から人間が形成され、繁栄していくまでの神秘を表現したシーンです。その中で人類はもともと性別がなく、男女が一体の形をした「アンドロギュノス」という生命体で、それがゼウスの雷によって分断されるというギリシャ神話も題材にされています。このような「キーワードを元に動きを作る」という作業は普段の鼓童にはない新たなクリエイションです。

このシーンの動きには岩手の「鬼剣舞」、青森の「津軽の手踊り」、そして新潟・佐渡の「鬼太鼓」がベースとして使われています。それぞれの郷土で育まれてきた土地のエネルギーが、世界中の人々に普遍的に訴えかける力があることは鼓童がこれまでも感じてきたことであり、それがルパージュ氏の描く物語とリンクすることで、新しい身体表現として生まれ変わっています。

◆ 〈NOVA〉を象徴するシーン2「コミュニティ」

人間が誕生し、コミュニティを形成し、やがて利己主義的になり争いが生まれる様を描いたシーンです。このシーンではロベール氏の強い希望により、鼓童で初めての「棒術」に挑戦しています。

未経験の「棒術」については、外部から合気道の先生をお招きして動きを創作しました。棒一つで様々な感情を表現しています。棒は「コミュニティ」において人と人をつなぐ儀式の道具、「争い」では武器となり、自分を守る一方で相手を傷つけるものとして、同じものが一つのシーンでいろいろな役割を持ち登場します。



DNAのシーンより



コミュニティのシーンより

「鼓童×ロベール・ルパージュ 〈NOVA〉」公式サイト

<https://www.kodo.or.jp/nova>



——2020年5月23日（土）、世界初演

2020年5月23日（土）、東京建物 Brillia HALL（豊島区立芸術文化劇場）の世界初演を皮切りに、熊本、新潟、山形、神奈川、愛知、大阪を巡演します。〈NOVA〉はラテン語で新しいという意味。鼓童とロベール・ルパージュが織りなす、見たことも感じたこともない新しい世界をお楽しみください。

◆ 東京公演概要

- ・公演名：「鼓童×ロベール・ルパージュ 〈NOVA〉」
- ・演出：ロベール・ルパージュ
- ・公演日程：2020年5月23日（土）～31日（日） ※休演日：5月27日（水）
- ・劇場：東京建物 Brillia HALL（豊島区立芸術文化劇場）
- ・主催：北前船、豊島区、公益財団法人としま未来文化財団
- ・助成：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京



◆ 公演期間・公演地情報

- ・5月14日（木）・16日（土）：横須賀芸術劇場 ※プレビュー公演
- ・5月23日（土）～31日（日）：東京建物 Brillia HALL（豊島区立芸術文化劇場）
- ・6月7日（日）：熊本県立劇場 演劇ホール
- ・7月10日（金）～12日（日）：新潟県民会館 大ホール
- ・7月25日（土）：やまぎん県民ホール（山形県総合文化芸術館） 大ホール
- ・9月3日（木）～6日（日）：KAAT 神奈川芸術劇場
- ・9月11日（金）～13日（日）：愛知県芸術劇場 大ホール
- ・9月19日（土）：厚木市文化会館 大ホール
- ・9月26日（土）：フェニーチェ堺 大ホール

・後援：カナダ大使館、ケベック州政府在日事務所



Québec

・特別協力：読売新聞社

・協賛：SEIKO、SGC、東京建物株式会社

・製作協力：Ex Machina



・Technological partner for video and tracking：VYV

・協力：KAAT 神奈川芸術劇場、横須賀芸術劇場（（公財）横須賀芸術文化財団）、フェニーチェ堺

・企画：製作・著作：北前船

◆ ロベール・ルパージュ



©V. Tony Hauser

ロベール・ルパージュは、演出家、脚本家、俳優、映画監督としても大成をおさめている。演劇に対するクリエイティブで独創的なアプローチにより世界的な賞賛を得、特に新たなテクノロジーを駆使することで古典的な舞台演出の概念を根本から揺るがした。著名な舞台作品としては、『ドラゴンズ・トリロジー』、一人芝居である『887』、オペラ作品『ファウストの劫罰』、マルチメディア作品においては『The Library at Night』、そしてシルク・ドゥ・ソレイユの『KÀ』及び『トーテム』などがある。

◆ 太鼓芸能集団「鼓童」

佐渡島を拠点に、太鼓を中心とした伝統的な音楽芸能に無限の可能性を見だし、現代への再創造を試みる集団。1981年ベルリン芸術祭でデビュー。以来52の国と地域で6,500回を超える公演を行う。劇場公演のほか、小中高校生との交流を目的とした「交流学校公演」や、多様なジャンルのアーティストとの共演、国際芸術祭、映画音楽等へ多数参加している。2012年から2016年まで坂東玉三郎氏を芸術監督に招聘。2017年「幽玄」で坂東玉三郎氏と再共演を果たし、翌18年には歌舞伎座において新作歌舞伎「幽玄」として演奏で参加した。近年は石川さゆり、初音ミク、AI、元ちとせ、ブラフマンらと共演。2019年には19年ぶりの中国ツアーを成功させたほか、「ラグビーワールドカップ2019日本大会」開会式、「国立競技場オープニングイベント ～HELLO, OUR STADIUM～」に出演。



撮影：岡本隆史

▼オフィシャル画像は下記 URL よりダウンロードいただけます。

http://www.kodo.or.jp/kodo_pr/202005nova (pass: nova2020ja)